

事業群評価調書(令和6年度実施)

基本戦略名	3-2 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る	事業群主管所属・課(室)長名	文化観光国際部 文化振興・世界遺産課	園田 貴子
施策名	5 特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化	事業群関係課(室)		
事業群名	① 歴史や文化芸術による地域活性化	令和5年度事業費(千円)	※下記「2. 令和5年度取組実績」の事業費(R5実績)の合計額	74,926

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)						(取組項目)				
本県の特徴ある歴史や文化芸術による地域づくり、それを担う人材の育成、文化資源を活用した地域の取組への支援など、官民協働で地域の文化資源を磨き上げることにより、歴史や文化芸術による地域の活性化を図ります。						i) 県内のどこにいても音楽や美術などの良質な芸術に触れられる機会の提供 ii) 本県を舞台とした作品の創作支援、出版社等との幅広い人的ネットワークの構築 iii) 継続的な若手芸術家の支援及び若者の企画立案能力向上を図るための人材育成、離島地域を含む本県の多様な文化芸術を総合芸術祭として一体的に実施 iv) 長崎ゆかりの偉人のさらなる顕彰や本県と中国との交流の歴史などの情報発信による認知度向上と海外との交流拡大、県内の日本遺産等を通じた長崎固有の歴史・文化の県内外への発信				
事業群	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	地域と協働して実施するイベントへの参加者数	目標値①		15,100人	15,500人	15,900人	16,300人	16,700人	16,700人(R7)	
		実績値②	13,290人(H30)	12,677人	13,713人	14,451人			進捗状況	
		達成率②/①		83%	88%	90%			やや遅れ	
地域文化資源の磨き上げや伝統文化の継承に積極的に取り組む地域を支援する市町等への補助を行い、地域主体の継続的な事業への転換が推進された。 参加人数については、新型コロナウイルス感染防止による制限が緩和されたこともあり令和4年度より増加しつつあり、今後も引き続き、県民が県内のどの地域でも文化芸術の鑑賞やイベントへの参加ができるよう、さらに市町等と連携しながら、ながさきピース文化祭2025が開催される令和7年度の最終目標達成に向けて取り組んでいく。										

2. 令和5年度取組実績(令和6年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費（単位:千円）			事業概要 令和5年度事業内容及び実施状況 （令和6年度新規・補正事業は事業内容）	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和5年度事業の成果等
				R4実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R4目標	R4実績	達成率	
				R5実績					R5目標	R5実績		
				R6計画					R6目標			
				事業実施の根拠法令等								
				事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業			他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象		
所管課(室)名												
取組項目 i	○	1	文化芸術ながさきステップアップ事業費	22,613	17,518	5,357	●事業内容 県民に良質な芸術文化に触れられる機会を提供し、芸術文化活動の促進と県民文化の向上を推進するため、長崎県美術展覧会（県展）の開催や長崎県文化団体協議会への支援を行う。 ●実施状況 長崎県美術展覧会（県展）及び同移動展を県内各地で開催したほか、県内の文化団体相互の連絡調整を行い、文化芸術活動を促進して県民文化の向上を図るため補助を行った。 また、令和5年度は、長崎県新人演奏会第50回記念事業として、記念演奏会と県内各地でのミニコンサートを開催した。	【活動指標】	5	5	100%	●事業の成果 ・県内5カ所での展覧会を開催し、県民の芸術鑑賞・参加機会の創出と、美術活動の普及促進を図ることができた。 ・長崎県文化団体協議会に文化芸術分野の専門人材を配置し、新人演奏会の開催や新人演奏会出演者を活用したコンサート等の企画・運営、地域の文化団体活動への支援を行うことにより、芸術鑑賞・参加の機会を創出した。 ・令和5年度は、長崎県新人演奏会第50回記念事業により、事業数と参加者数の目標を上回った。 ●事業群の目標達成への寄与 ・県民のニーズに応じた文化芸術活動を支援することにより、県民文化の向上を図ることができた。
				37,710	9,013	5,361		展覧会の回数(回)	5	5	100%	
								【活動指標】	15	13	86%	
									主催事業（自主事業） 実施件数(件)	15	17	
			32,521	11,746	5,447	【成果指標】		15,000	12,378	82%		
						県展の観覧者数(人)		15,000	13,008	86%		
								【成果指標】	12,000	10,694	89%	
			R2-	—				主催事業（自主事業） 参加者数(人)	12,000	14,263	118%	
			文化振興・世界遺産課	—	—	—		長崎県美術展覧会実行委員会、長崎県文化団体協議会	12,000			

取組項目 i	○	2	ながさき未来のアーティスト応援事業費				●事業内容 地理的・経済的な格差なく、子どもたちが地域で主体的に文化芸術活動に取り組むことができる「こども場所」をつくるため、子どもたちが求める分野の指導者を派遣し、文化芸術活動への参画機会と成果発表の場を創出する。	【活動指標】 文化芸術に触れられる「こども場所」の数(箇所)				—		
				8,756	4,378	7,781		【成果指標】 こども場所での活動への参加者数(人)	10					
			—											
			(R6新規)R6-8											
			文化振興・世界遺産課	—	—	—	離島・半島・過疎地域の子どもたち		200					
取組項目 ii	○	3	「描いてみんな！長崎」事業費		1,030	620	2,295	●事業内容 小説やマンガなど本県に関わりのある作品を多く生み出すことによって、幅広い世代、嗜好の異なる読者層へ小説やマンガなどを通じて本県の魅力発信と関係人口の創出を図る。 ●実施状況 首都圏の出版社等を訪問し、他県に類を見ない本県の歴史、風土、景観等の地域資源を売り込み、マンガ、小説などの分野での作品化を図る手法の確立を目指すとともに、切れ目のない創作支援を行うことにより、幅広い人的ネットワークの構築に努めた。	【活動指標】	5	4	80%	●事業の成果 ・出版社や作家4名を本県への取材旅行に招待し、本県を舞台としたマンガ、小説などの創作支援を行った。令和6年度中に、その4作の作品化予定。 ・作品の単行本発売時等にマスコミに周知を行い、作品及び事業のPRができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・出版社や作家へ継続的に、他県に類を見ない本県の歴史、風土、景観等の地域資源の売り込みを行うことで、出版社等との幅広い人的ネットワークの構築及び本県を舞台とした作品の創作につなげることができた。	
					1,073	641	2,297			5	4	80%		
			(R5終了)R元-5	—			【成果指標】		4	4	100%			
									長崎県を舞台にした作品数(本)	4	0	0%		
				文化振興・世界遺産課	—	—	—	出版社・作家						
	○	4	<ビジョン>マニアが集う長崎プロジェクト費					●事業内容 県内各地に様々なジャンルの聖地・拠点を創出し、多くのマニア(愛好家)の誘客を図るため、市町・民間と連携して、潜在するコンテンツを掘り起こし磨き上げるとともに、情報発信及び受入環境整備を促進する。	【活動指標】	—				—
					31,102	28,715	26,396		【成果指標】					
				—										
			(R6新規)R6-8				本事業の取組により本県へ行きたいと思った人の割合(%)		70					
			文化振興・世界遺産課 観光振興課 物産ブランド推進課	—	—	—								
	○	4-1	<ビジョン>マニアが集う長崎プロジェクト費				●事業内容 「新しい長崎県づくりのビジョン」の交流分野において、アニメや小説等の聖地化及び誘客促進のため、本県を舞台とした作品の創作支援、小説等のマニアや作家のファン向けのSNSを活用した情報発信、書店フェア等を開催し、作品舞台を巡る「聖地巡礼」など交流人口の拡大を図る。	【活動指標】 イベント開催数(件)				—		
									【活動指標】 創作を支援した出版関係者・作家数(人)	5				
										【成果指標】 イベント参加者数(人)	8,000			
					3,987	3,382		11,671	【成果指標】 長崎県を舞台にした作品数(本・累計)		27			
(R6新規)R6-8				—										
文化振興・世界遺産課			—	—	—	出版社・作家・県内外のマニア等								
—	4-2	<ビジョン>マニアが集う長崎プロジェクト費(参考)				●事業内容 本県への誘客や県内周遊を図るため、本県を舞台とした映画・ドラマ等のロケーション活動への支援のほか、作品ロケ地等を活用した情報発信等の取組を実施する。	【活動指標】				—			
				13,447	13,447		7,781	【成果指標】 特設WEBページの閲覧数(万PV／年)	135					
			—											
		(R6新規)R6-8					映画、テレビ等の制作会社、一般観光客等							
観光振興課	—	—	—		1									

-		4-3	<ビジョン> マニアが集う長崎プロジェクト費(参考)				●事業内容 アフターコロナにおいて、消費が落ち込んだ観光や酒類市場を活気づけるため、長崎県産酒のコアな魅力を全国の酒マニアに届け、長崎のファンになってもらい、訪れてもらうことで交流人口の拡大及び酒類市場の活性化につなげる。	【活動指標】 動画作成本数(累計)				-
				13,668	11,886	6,944			3			
			(R6新規)R6-8									
			物産ブランド推進課	—	—	—		お酒に興味関心のある関東、関西、福岡圏の方、県内飲食店	動画再生回数(累計)	116,500		
取組項目 iii	○	5	みんなで創る！ながさき国際文化芸術プロジェクト事業費	21,875	6,010	7,653	●事業内容 ながさきピース文化祭の開催に向けて、地域資源の磨き上げや伝統文化の継承に積極的に取り組む地域を重点的に支援する。また、全県域における若者を対象としたワークショップ等の取組により「ながさき愛」を高め、交流人口の拡大、人口定着を図る。 ●実施状況 ながさきピース文化祭2025の開催に向けて、地域文化資源の磨き上げや伝統文化の継承に積極的に取り組む地域を支援した。また、若者参画型の文化芸術による地域づくりを推進することにより交流人口の拡大・関係人口の創出と若者人口定着を図った。	【活動指標】	15,500	13,713	88%	●事業の成果 ・地域文化資源の磨き上げや伝統文化の継承に積極的に取り組む地域を支援する市町等への補助制度を継続し、県主体の事業から、地域主体の事業への転換が推進された。 ●事業群の目標達成への寄与 ・事業を一過性のものではなく、継続的に実施するための文化芸術推進体制の基盤づくりに寄与した。
				20,114	2,761	7,659		国民文化祭へ向けた地域で実施する文化資源の磨き上げや伝統文化の継承などの取り組みにかかる参加者数(人)	15,900	14,451	90%	
				29,256	9,183	7,781		【成果指標】	16	16	100%	
			R4-7	—			国民文化祭へ向けた地域で実施する文化資源の磨き上げや伝統文化の継承などの取り組みにかかるイベントの実施回数(回)	18	19	105%		
		文化振興・世界遺産課		—			市町等	20				
			取組項目 iv	○	6	「長崎の歴史」魅力再発見・発信事業費	13,957	10,957	26,786	●事業内容 本県のプレゼンスの向上や中国との交流の深化を図るため、隠元禅師や孫文・梅屋庄吉などに象徴される長崎と中国との交流の歴史について国内外への効果的な情報発信を実施するとともに、本県の特色のある歴史文化を研究する「長崎学」や「日本遺産」を活用して国内・海外交流及び情報発信を強化する。 ●実施状況 長崎ゆかりの偉人顕彰については、中日黄檗文化交流大会への参加などの中国現地での情報発信や、県内高校での「孫文と梅屋庄吉」講演会開催、ウェブサイト「旅する長崎学」の多言語化による海外向け情報発信の強化に取り組んだ。 日本遺産「国境の島」については、文化庁職員等を講師に招いての日本遺産「国境の島 吉岐・対馬・五島」シンポジウム(長崎市)の開催や、日本遺産フェスティバル(東京都)でのブース設置、長崎歴史文化博物館、県庁及び各協議会部会でのパネル展を行った。また、国から重点支援地域に選定されていることから、観光庁支援事業として「国境の島」多言語パンフレット(中国語簡体字・日本語併記)を作成した。	【活動指標】	
10,596	8,793	26,806					長崎と中国との交流の歴史に関する情報発信数(回)	4	5		125%	
							【活動指標】	30	31		103%	
								30	31		103%	
								30				
9,468	9,468	27,233					【成果指標】	72	100		138%	
					長崎と中国の繋がりの理解が深まった割合(%)	72	100	138%				
					72							
					【成果指標】	40	46	115%				
R3-7	—				日本遺産の認知度(%)	40	53	132%				
	文化振興・世界遺産課	—			市町、国内、中国自治体および中国国民	50						

取組項目iv	○	7	長崎県文化観光推進事業費	19,927	5,873	19,133	●事業内容 文化観光推進法に基づく国の補助金等を活用した博物館などの文化観光拠点施設の機能強化や施設間の連携、食文化コンテンツの磨き上げ等により、来館者の満足度向上、周遊促進を図る。 ●実施状況 文化観光拠点施設の機能強化として、長崎歴史文化博物館の常設展示で取り扱うテーマに関する文化観光映像(多言語)の制作及び収蔵資料の多言語化を進めた。また、海外交流に根差した豊かな食の歴史を活かした文化観光コンテンツの増進を図ることを目的とした研究等、文化資源の磨き上げのための事業を実施した。	【活動指標】 長崎県文化観光推進協議会の開催数(回)	2	2	100%	●事業の成果 ・令和5年度は、左記の文化観光拠点施設の機能強化を進めた。これにより、幅広い層に対して、長崎の歴史文化の更なる理解促進を図った結果、来館者満足度目標の達成につながった。また、文化観光拠点施設のメイン館である長崎歴史文化博物館で実施した世界遺産登録5周年展では、各地域の関連する歴史が学べる施設を併せて紹介することにより周遊促進を図った。 ●事業群の目標達成への寄与 ・長崎県の特色ある歴史文化の発信強化の取組により長崎県の文化観光への理解促進や地域周遊の活性化に寄与したほか、特集展示を契機とした関連施設連携PRの実施や長崎県文化観光推進協議会の場における各施設や観光事業者の取り組みについての情報共有の実施により、各施設の文化観光施設としての魅力向上が実現できた。
				5,433	1,786	3,315			2	2	100%	
				10,604	3,702	3,871			2			
			R3-7	—				【成果指標】 文化観光拠点施設の中核館である歴史文化博物館と県美術館の満足度アンケート(5段階)	4.0	4.4	110%	
									4.0	4.3	107%	
			文化振興・世界遺産課	—	—	—	長崎県文化観光推進協議会		4.0			

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	県内のどこにいても音楽や美術などの良質な芸術に触れられる機会の提供	●実績の検証及び解決すべき課題 優れた芸術鑑賞の機会が少ない地域においては、県展移動展のほか、長崎県美術館及び長崎歴史文化博物館が行う移動展や遠隔授業等の実施により、県内各地において地域住民に優れた芸術文化鑑賞の機会を確保した。県展については、県展への親近感を醸成するため、チャリティーオークションや作品解説鑑賞会、小中学生を対象としたワークショップ、「入賞・入選作品貸出事業」に取り組んだ。令和5年度は、前年度と比べて出品者数と観覧者数が増加したが、物価高騰の影響もあり財政状況は厳しい状況が続いている。 長崎県文化団体協議会には、文化芸術分野の専門人材を新たに配置し、より質の高い文化事業の企画・運営を目指し、体制強化を図った。地域の文化団体は、人口減少や高齢化により弱体化の傾向にあり、ながさきピース文化祭2025に向けて、支援のあり方を検討する必要がある。 地域住民に参画していただく「ながさき国際文化芸術祭」を実施することにより、良質な芸術に触れられる機会の提供が図られたが、こどもや若者が文化芸術への関心を高める取組につながっていない。また、離島や過疎地では身近な場所での文化芸術の鑑賞・体験機会が少なく、地域間格差がある。	●課題解決に向けた方向性 ながさきピース文化祭2025を契機に、こども県展との連携を図るなど、県展の段階的な再編を検討し、出展数、観覧者数の増加につながるような「総合美術展」としてステップアップしていく。今後も、イベント等の集客や実施方法について、オンラインなどを活用した新たな手法を取り入れていくことを引き続き検討していく。また、出品数や観覧者数、協賛企業数の増加につながる運営方法の改善について、県展実行委員会と協議を進める。 地域文化活動の活性化を図るため、新しい分野の団体の掘り起こしや、文化団体の体制強化、補助制度の見直しを図る。 イベント等の開催において、県内どこにいても良質な芸術に触れられる機会を創るため、オンラインの活用や分野を超えた連携など新たな手法の構築を検討していく。 文化芸術の専門人材を活用し、未来の文化芸術を担う子どもたちが、地理的な格差なく、幼少期から身近な場所で優れた文化芸術に触れ、発表し活躍できる場を提供する。
ii	本県を舞台とした作品の創作支援、出版社等との幅広い人的ネットワークの構築	●実績の検証及び解決すべき課題 人口減少などにより地域の活力が低下するなか、地域の活力を再生するには、他県にはない個性的な取組や、交流人口等拡大のための各種施策、人的ネットワークの構築が重要である。本事業では、作家等を招聘し、本県をテーマとしたマンガや小説等が作品化されることで、本県の魅力発信に努めるとともに、出版社等との幅広い人的ネットワークの構築を推進した。 本県はいわゆるサブカルチャーを基軸とした取組を行っておらず、当該分野を活用した地域活性化の取組が遅れている状態である。	●課題解決に向けた方向性 首都圏の出版社等を訪問し、他県に類を見ない本県の歴史、風土、景観等の地域資源のさらなる売り込みを行い、マンガ、小説などの分野で作品化を図る手法の確立を目指すとともに、「マニアが集う長崎プロジェクト」において、引き続き、より幅広い人的ネットワークの構築を図る。 今後は、創作支援から市町の協力を得ることができる仕組みを構築し、作家のファンや歴史、アニメ等のマニアが集うような聖地化を見据えた取り組みを連携して実施する。また、ファンやマニアによるSNSなどでの情報発信により、本県の地域資源のさらなる魅力発信を図る。
iii	継続的な若手芸術家の支援及び若者の企画立案能力向上を図るための人材育成、離島地域を含む本県の多様な文化芸術を総合芸術祭として一体的に実施	●実績の検証及び解決すべき課題 文化芸術活動による地域づくりを推進するため、従来の県が地域をけん引する形での事業ではなく、地域主体型への事業へと転換を図った。今後も各地域で持続可能な取組が継続されていく体制を構築することに努める。 若者や関係人口、海外アーティストの参画など、人口減少対策や国際文化交流に繋がる文化芸術活動の実施が求められている。	●課題解決に向けた方向性 東京藝術大学や地元大学等との連携強化を図り、そのノウハウや人的ネットワーク等を活用して地域実行団体の体制強化・人材育成を行う。また、市町等の補助金に頼らない多様な財源の確保を推進し、地域での自走を図る。

iv 長崎ゆかりの偉人のさらなる顕彰や本件と中国との交流の歴史などの情報発信による認知度向上と海外との交流拡大、県内の日本遺産等を通じた長崎固有の歴史・文化の県内外への発信 ●実績の検証及び解決すべき課題 隠元禅師の顕彰については、中日黄檗文化交流大会への参加などの中国現地での情報発信や、ウェブサイト「旅する長崎学」の多言語化による海外向け情報発信の強化に取り組んだ。ただし、長崎ゆかりの偉人に対する認知度向上や海外との交流拡大については、コロナによる影響等もあり、まだ十分ではなく、行政主導による取組の側面が強い。 日本遺産「国境の島」の取組については、多言語パンフレット作成やシンポジウムの開催など、情報発信・普及啓発事業などで効果を上げた。今後さらに、日本遺産そのものの知名度を高め、文化観光の進展やコロナ後の地域活性化事業に取り組んでいく必要がある。 国へ申請した令和3年度から令和7年度までの長崎県文化観光推進地域計画に基づき事業を計画的に実施しており、文化観光施設への誘客喚起、来訪者の満足度向上につながる、施設のソフト・ハード両面における機能強化を図っている。計画期間の後半においては、文化観光を活かした周遊促進等による経済効果の波及や、地域の活性化につなげていくための施設連携について更なる強化を図り、文化観光拠点施設の魅力と地域の魅力を顕在化するためのコンテンツを創出する必要がある。	●課題解決に向けた方向性 長崎ゆかりの偉人の顕彰については、民間の動きを活発にするとともに、国内外に広く分かりやすく情報発信するなどの取組を継続して行うことにより、孫文と梅屋庄吉の友情の物語や、隠元が日本文化に与えた影響に対する認知度・理解度を高め、交流の拡大・多様化につなげていく。 日本遺産については、各地域の構成資産や歴史ストーリーが持つ魅力の磨き上げを図ることや、連携した誘客対策等により、ふるさと教育や観光誘客の促進に取り組むとともに、日本遺産の全国イベントをはじめ、様々なイベントや各種媒体で魅力を発信して知名度向上を図っていく。 また、地域の食文化の魅力を紹介するコンテストを開催するなど、課題をふまえた今後の取組について検討していく。 博物館等の魅力増進、県内各地域の食文化コンテンツの磨き上げを進めるとともに、文化観光拠点施設の魅力と地域の魅力を顕在化するためのコンテンツを活用し、本県の文化観光の魅力について発信していく。
--	---

4. 令和6年度見直し内容及び令和7年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和6年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和6年度の新たな取組は「R6新規」等と、見直しがない場合は「―」と記載	令和7年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
i	○	1	文化芸術ながさきステップアップ事業費	県内5カ所での展覧会を継続して実施するため、作品輸送費等にかかる経費への支援を行い、出品数や観覧者数の増加につながるよう、引き続き段階的な再編を検討した。 また、より質の高い文化事業の企画・運営と県内文化団体の活動の活性化を目指し、文化芸術分野の専門性の高い人材を確保し、長崎県文化団体協議会の体制強化を図っていく。	②③⑥	ながさきピース文化祭2025を契機に、こども県展との連携を図るなど、観覧者にとって魅力ある「県内最大の総合美術展」へ再編することなどを引き続き検討する。 また、長崎県文化団体協議会の体制強化を図ることにより、県内の文化芸術団体、地域文化の活性化、若者人材の掘り起こし等につなげ、ながさきピース文化祭2025後も持続的な芸術文化事業を運営できる基盤づくりを目指す。	改善
			R2-				
			文化振興・世界遺産課				
i	○	2	ながさき未来のアーティスト応援事業費	R6新規	②④⑤⑥	文化関係者だけでなく、福祉、教育、地域づくりなど様々な分野の関係者に協力を仰ぎながら、県内他地域に横展開していく。	改善
			(R6新規)R6-8				
			文化振興・世界遺産課				
ii		4	マニアが集う長崎プロジェクト費	R6新規	②④⑤⑥	専門家や県庁内のマニアとの意見交換を踏まえ、市町・民間と連携してマニアへ効果的にアピールできる事業内容を構築していく。	改善
			(R6新規)R6-8				
			文化振興・世界遺産課 観光振興課 物産ブランド推進課				
ii	○	4-1	マニアが集う長崎プロジェクト費	R6新規	②⑤⑥	令和6年度の書店フェア等のイベントでは、来場者アンケート等を実施し、小説等のマニアの意見を収集して事業の成果を検証することにしており、検証結果を令和7年度事業に反映させ、マニアへより効果的にアプローチできる事業内容に改善する。	改善
			(R6新規)R6-8				
			文化振興・世界遺産課				

iii	○	5	みんなで創る！ながさき国際文化芸術プロジェクト事業費	参加対象を広げたり、イベント開催市町の事業と連携するなど、より効果的な事業実施を図っていく。また、若者が地域のコミュニティとの対話を繰り返しながら、アート作品を制作するなど新しい取組の実践に努める。	②③⑤⑥	ながさきピース文化祭2025の開催及び開催後を見据え、次世代を担う若者が主体的に地域づくりに関わることにより、新しい地域文化の創出に繋げる。 そのために、東京藝術大学等との連携を推進するとともに、積極的に人材育成及び新しい文化の創出に取り組む地域を支援する。	改善
			R4-7				
			文化振興・世界遺産課				
iv	○	6	「長崎の歴史」魅力再発見・発信事業費	令和6年度は、これまで構築したネットワークを生かした交流事業として、中国・福建省や京都など隠元禅師ゆかりの地と連携し、国内外への情報発信に取り組み、本県の認知度を向上させるとともに、コロナで交流が止まっていた中国・湖北省などの人的ネットワークの再構築、交流の拡大につなげていく。 日本遺産「国境の島」の取組については、令和6年度に認定継続が認められたことを契機とし、様々な機会を捉えて情報発信等を行い、知名度向上につなげていく。	②⑥	今後、アフターコロナの進展等により人の往来の増加も期待されることから、県内の2つの世界遺産をはじめ、日本遺産、長崎ゆかりの偉人、食文化や長崎学など長崎特有の歴史・文化と観光を融合させ、本県への誘客までを見据えた情報発信や誘客促進等の取組を、関係地域とも連携を深めながら積極的に進めていく。 また、令和7年度は、日本遺産「国境の島」が認定10周年を迎えることから、更なる認知度向上や誘客促進に向けた新たな取組を検討していく。	改善
			R3-7				
			文化振興・世界遺産課				
	○	7	長崎県文化観光推進事業費	令和6年度は、引き続き、周遊促進のために市町の取り組みにも積極的に関わり事業者が事業を円滑に進められるように支援を実施する。また、令和7年度までの長崎県文化観光推進地域計画に基づき、博物館等の展示内容の充実や機能強化を進めてきた館の魅力、及び地域魅力を顕在化するためのコンテンツを、施設間の協力体制のもと制作を進める。	⑤⑥⑧	引き続き、博物館等の魅力増進を図るとともに、令和6年度に施設間の協力体制のもと制作する館の魅力と地域の魅力を顕在化するためのコンテンツの成果や課題を整理し、本県の文化観光の推進に活用することで、様々な文化資源の更なる魅力増進や広域的な文化観光の推進を図る。	改善
			R3-7				
			文化振興・世界遺産課				

注:「2. 令和5年度取組実績」に記載している事業のうち、令和5年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

- 【事業構築の視点】
- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
 ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
 ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
 ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
 ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
 ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
 ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
 ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
 ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
 ⑩ その他の視点